

2 四季防災館の利用促進と防災意識の向上

資料3

＜今回のリニューアルの目標＞

- ① **正しく災害を理解する** ← 体で災害への備えの必要性を感じる【体験コーナー】
- ② **適切な避難行動** ← 災害のリスク、仕組みを正しく知る【情報コーナー】
- ③ **住宅の耐震化や家具の固定、食料の備蓄などの事前の備え** ← 何を行うべきか正しく知る【3階】



(1) ①利用しやすい、利用してみたいくなるよう、**体験コーナーを活用した体験コースの設定**、②具体の備えに

つながるよう、防災講座などの**研修の見直し**を行ったうえで、

(2) より多くの県民に、県内全域から訪れてもらえる仕組みを用意し、

県民が、**どのような災害に、どの程度**備えているか、**見える化**する必要がある。

・ 行動の変化を導き出す
・ 体験・体感した成果（行動の変化）についてのアンケート

＜＜見直しの概要＞＞

(1) 普及啓発のツールの整備

① 体験コーナーを活用した体験コースの見直し

・ テーマ別、利用団体別にコースを設定し、コースごとの利用実績を災害への県民の備えの指標として活用

② 「事前予約をしていない」個人利用者向けのモデルコース（巡回コース）の設定

③ 防災講座などの研修の見直し

・ 開催時期や、講座対象者に応じて、講座等のテーマを設定。そのうえで、災害への備えにつながる成果を参加者に提供

④ 3階「災害に備えるコーナー」をより体験型に見直し

・ 住宅の耐震化や家具の固定等の重要性を確認できる実験キットの導入など

2 四季防災館の利用促進と防災意識の向上

①体験コース

これまで	リニューアル後・現状	見直し（案）
時間でコース設定 内容は申込者の希望による。 選択肢にはテーマ・ストーリー性なし	- 時間でコース設定 内容は申込者の希望による。 選択肢にはテーマ・ストーリー性なし - 不定期の個人体験コース（10人未満、予約不要）を設定	テーマ別、利用団体別にコース設定し、<u>メニュー化</u> 体験コーナーを組み合わせ、テーマ別等のコースを設定

外国人メニューと、外国人用解説ペーパーを用意

<<見直し後の体験コースのイメージ>>

◎防災の基本コース・・・対象は、一般団体・グループ、企業の外国人スタッフ

	災害の種類等	体験コーナー （体験・体感）	情報コーナー等 （リスク・仕組みを学ぶ）	3階 （備える）
①	ガイダンス		ガイダンスコーナー	- ゆれやすさマップ - 津波ハザードマップなどの確認
②	富山の気象・災害等	防災シアター		
③	地震・津波	地震体験 津波VR	タッチパネルモニター 地震発生時の行動 避難所生活	
④	水害	洪水VR 風雨災害体験（雨） 流水体験 （水圧ドア）	タッチパネルモニター （水害コーナー）	耐震工事、家具固定の実験キット 食料などの備蓄品 非常用持出袋

・ハザードマップなどの確認



※ 学校団体コース、地震・津波、水害、火災などの個別災害コースを設定 → 繰り返し利用できるように

2 四季防災館の利用促進と防災意識の向上

体験コーナーを使用できるよう、あらかじめ個人枠を設定

②<<予約なしの個人利用者向けモデルコースのイメージ>>

<順路>

(1階)

- ・地震発生時の行動
- ・津波・液状化・避難所・情報コーナー

(2階)

- ・クイズコーナー
- ・水害コーナー(パネル)
- ・冬の災害コーナー

(3階)

- ・災害に備える → チェックシート記入

(考え方)

- ・災害に備えている県民を増やすため、予約なしで訪れる個人にもしっかりと学んでもらえるようにする。
- ・大きな被害をもたらすおそれのある地震に備える。
- ・近年、全国的に頻発・激甚化している風水害に備える。(R8.8月には県内でも甚大な被害が発生)
- ・富山の冬を象徴する「雪」の降り方が大きく変わり、生活への影響も大きい。

- ・ゆれやすさマップ、津波ハザードマップ、ハザードマップなどで、自分が住む地域のリスクを確認

※解説員に余裕があれば解説

- ・二次元コードで事前の備えなどを確認

※解説員に余裕があれば解説

③<<見直し後の防災講座のイメージ>>

- ・体験コーナーなども活用して、受講後に災害にしっかりと備えてもらえる受講の成果を提供

テーマ	時期	対象	体験コーナーなど	参加することで得られる成果
風水害に備える	出水期 (6月～10月)	・個人 ・自治会	情報コーナー 風雨災害体験(雨) 流水体験 水圧ドア 洪水VR	・マイタイムライン

2 四季防災館の利用促進と防災意識の向上

(2) 県民の利用を促す環境整備

① バスの借り上げ補助

- ・全県的に利用してもらえるよう、予算額を増額要求
- ・バランスよく利用してもらえるよう、利用枠を例えば、4広域圏ごとに設定。補助率も遠隔地は嵩上げ

② 既存事業への組み込み、共助を担う既存組織（県防災士会、自主防災組織、自治会）と連携強化

例1) 自主防災組織リーダー養成、防災士のスキルアップなど既存の研修のメニューへの四季防災館での体験の組み込み

例2) 県防災士会など共助を担う既存組織の研修での利用の呼びかけ

③ 県・市町村の広報媒体の利活用

例) 市町村の総合防災訓練の案内、災害に対する備えなどの特集記事などを掲載する際に、四季防災館での体験を呼びかけ

④ PRの強化

- ・新たな防災対策の普及啓発の手段の一つとして、四季防災館での体験等を組み込み

